

2021 年度 新入生の状況に関する調査 結果まとめ (概要)

対象： 2021 年度 1 年生
対象学生数： 1,331 名
回答数： 724 (回答率 54.4%)

I. アンケートの概要

調査は、2022年1月から2月にかけて新入生（1年生）を対象にユニバーサルパスポートのアンケート機能を用いて実施した。設問は、本学への入学を決定した入試形式、本学への入学目的、入学に至るまでの項目（アドミッション・ポリシーの利用、進路決定のための情報収集ツール、高大連携の認知・利用）、入学前教育の効果、等から構成されている。

本報告書では、各項目の結果を述べるとともに、本調査と同時に実施された学生生活に関する調査における「大学生生活の充実度」、「休学および退学の検討状況」の結果とのクロス集計を実施し、入試形態との連関について考察した。

II. 結果

1) 基本属性

表1、表2は、それぞれ、学科、本学への入学を決定した入試形態を示したものである。

表1 所属学科

学科等名称
社会福祉学科
福祉心理学科
福祉行政学科
産業福祉マネジメント学科
情報福祉マネジメント学科
教育学科初等教育専攻
教育学科中等教育専攻
保健看護学科
リハビリテーション学科理学療法学専攻
リハビリテーション学科作業療法学専攻
医療経営管理学科

表2 本学への入学を決定した入試形態

入試形態
総合型選抜入試
スポーツ文化
学校推薦型選抜
一般選抜 A 日程 [スカラシップ含む]
一般選抜 B 日程
一般選抜 C 日程
大学入学共通テストプラス
大学入学共通テスト利用入試

2) 本学への入学目的

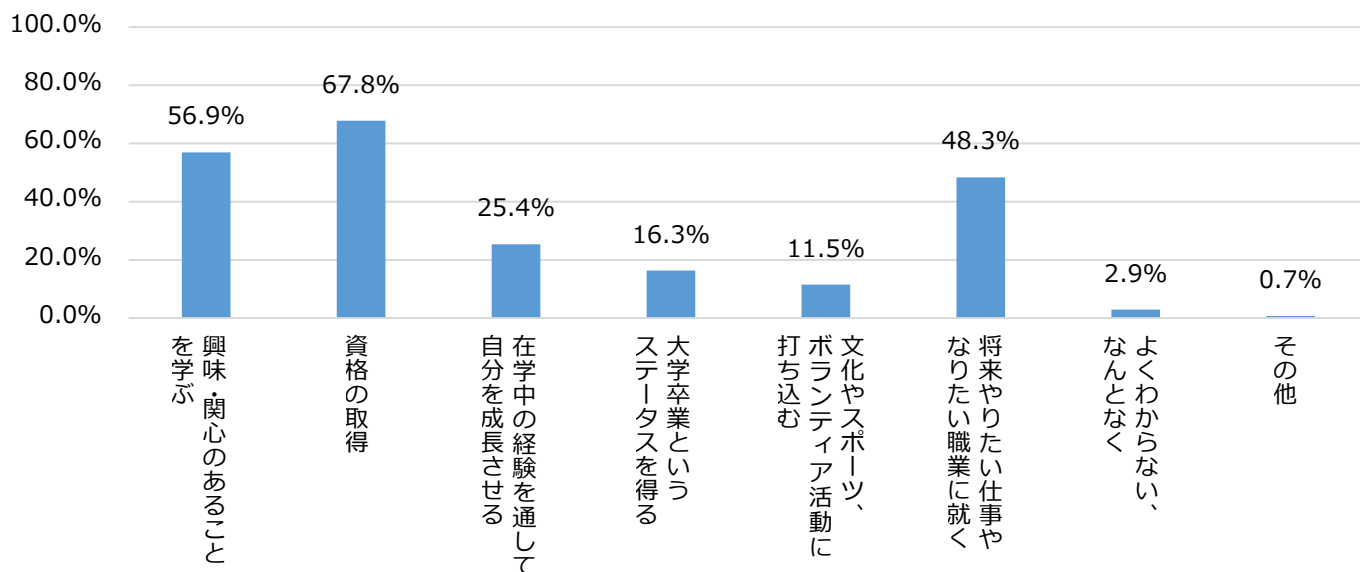


図1 目的別の割合

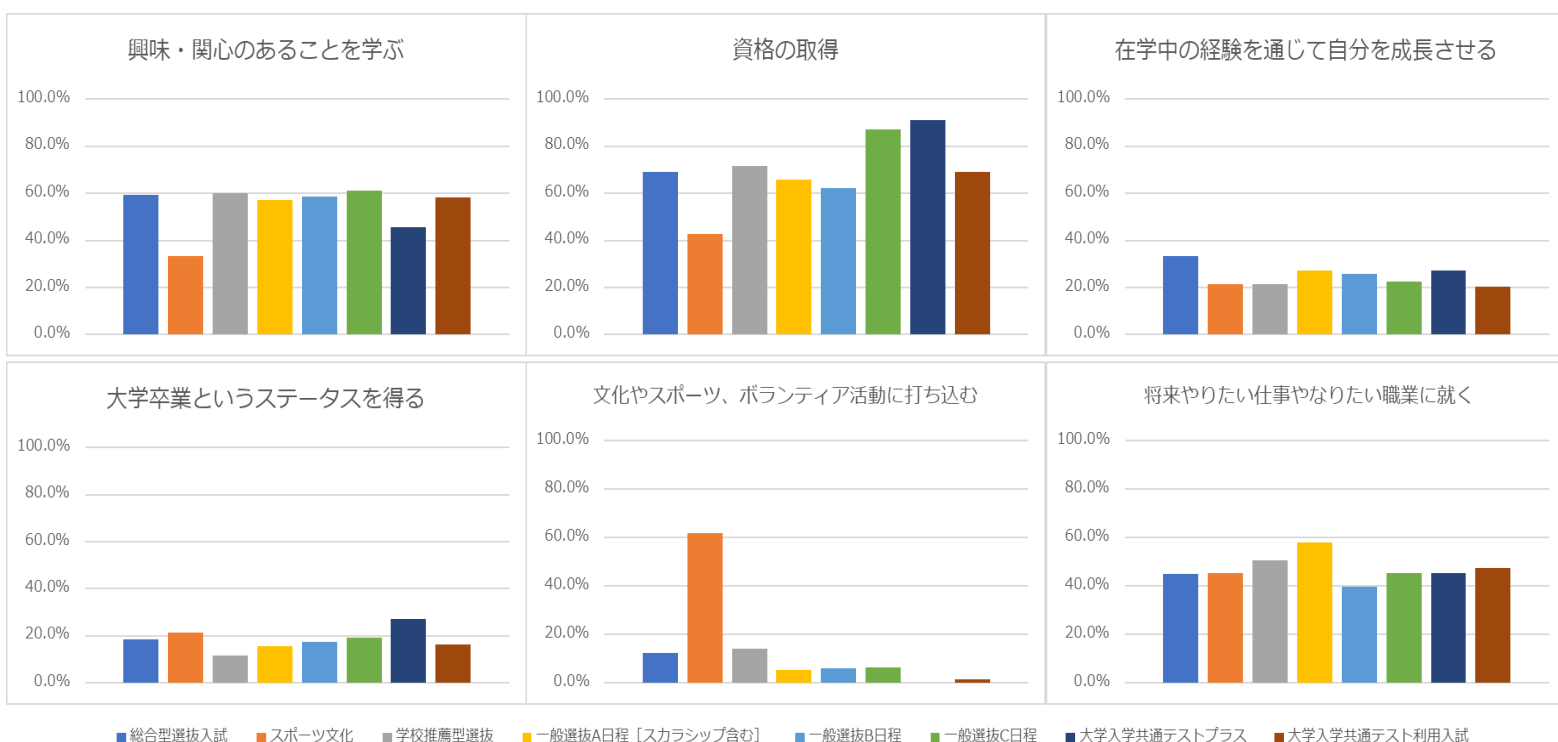


図1は本学の入学目的を複数回答可能として調査結果である。選択肢は「興味・関心のあることを学ぶ」「資格の取得」「在学中の経験を通して自分を成長させる」「大学卒業というステータスを得る」「文化やスポーツ、ボランティア活動に打ち込む」「将来やりたい仕事ややりたい職業に就く」「よくわからない、なんとなく」「その他」である。なお、縦軸の割合はその選択肢への回答数を全回答者数（724）で割ったものである。2019年までは最も当てはまる理由1つの選択だったので、単純比較はできないが、「将来やりたい仕事ややりたい職業に就く」、「興味・関心のあることを学ぶ」の割合が高い傾向は同様であった。

次に、図2は入試形態でクロス集計した本学への入学目的である。複数の選択回答であるため、図1と同じく、入試形態毎に回答数をその入試形態の総数で割っている。『スポーツ文化』入試において「文化やスポーツ、ボランティア活動に打ち込む」が際立って高いのに対して、「興味・関心のあることを学ぶ」「資格の取得」が低いのを除くと全体の傾向と同様であることが見て取れる。それ以外の選択肢については全体での集計結果と大きな違いは見出せない。なお、回答数の少なかった「よくわからない、なんとなく」はクロス集計からは除外している。

3) アドミッション・ポリシー（AP）の理解と利用

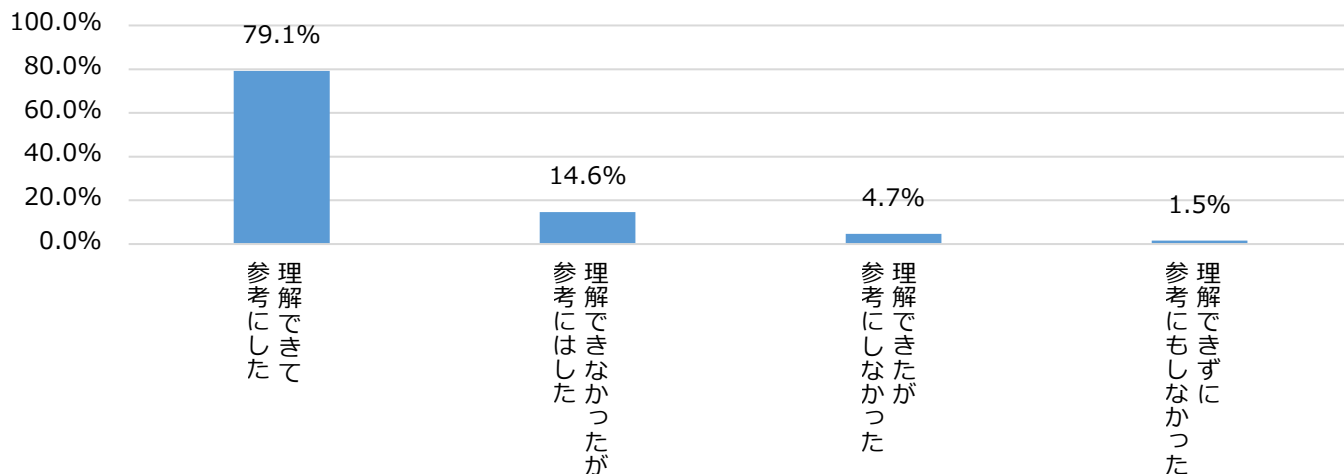


図3 APの理解と進路決定への寄与

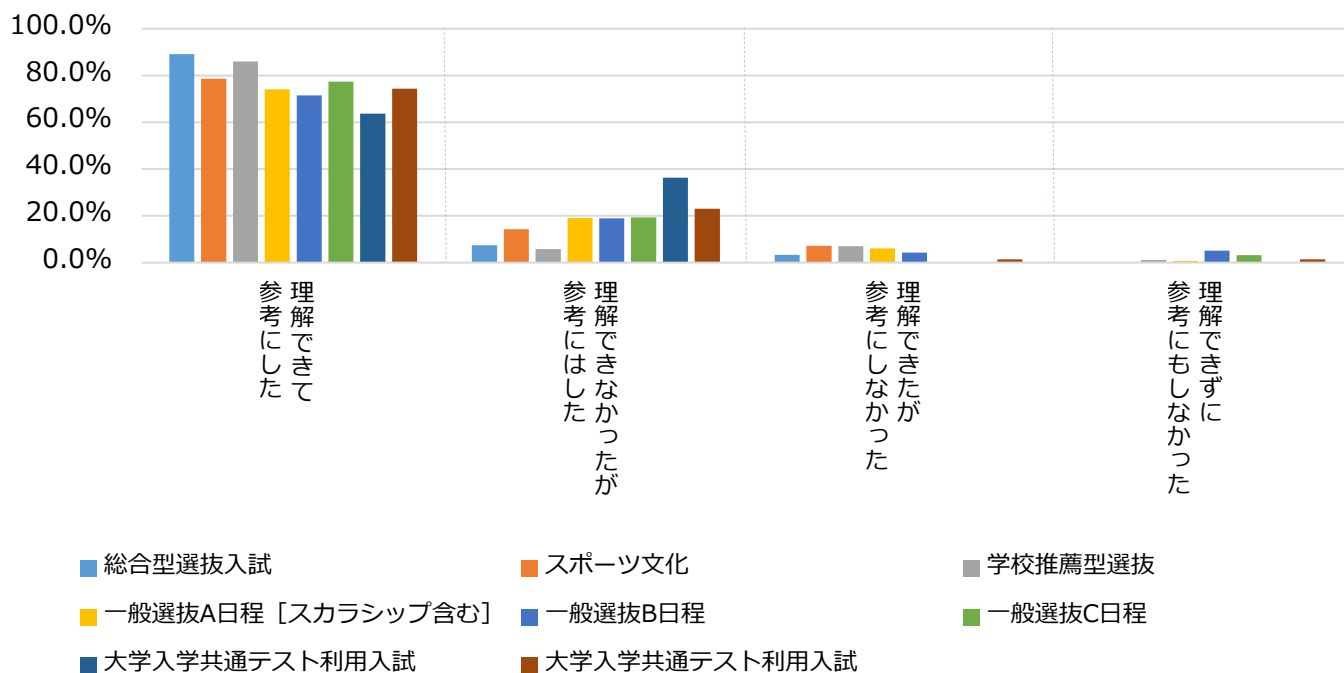


図4 APの理解と進路決定への寄与（入試形態別傾向）

図3は本学が公表しているアドミッション・ポリシー（AP）について、理解ができたか、そして、その内容を進路決定の参考にしたかどうかについて回答を求めた結果である。「理解できて参考にした」または「理解できなかったが参考にはした」と回答した者の合計は約90%を超えており、APを参考に進路決定をしている者が多数であることが見て取れる。また、「理解できなかった」と回答した者は全体の20%に満たないことから、本学が公表しているAPの内容は高校生にとって理解可能な内容となっていると判断できる。

図4は図3を入試形態でクロス集計した結果である。全体の回答と比較すると『総合型選抜入試』、『スポーツ文化』、『学校推薦型選抜』においてAPを参考にした者が多く、その反対に『大学入学共通テスト利用入試』において、参考にしなかったと回答した者が多いことが見て取れる。この結果から、特に推薦入試を目指す者にとって、APは進路決定における参考情報となっていることが示唆される。

4) 進路選択のための情報取得ツール

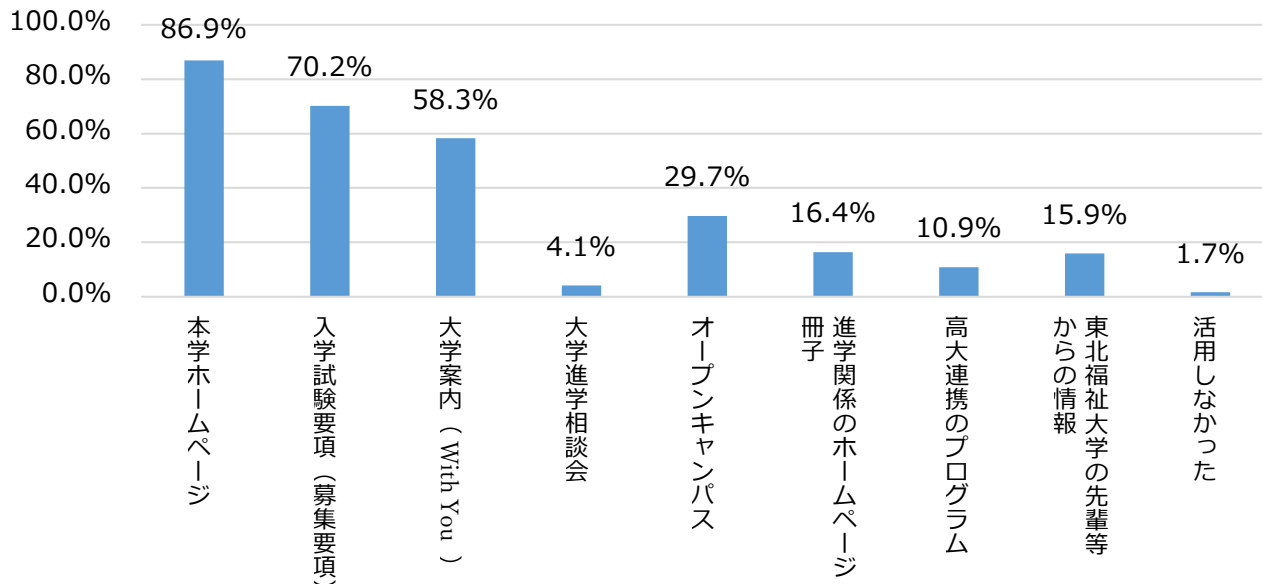


図5 情報取得ツールの活用割合 (3つまで)

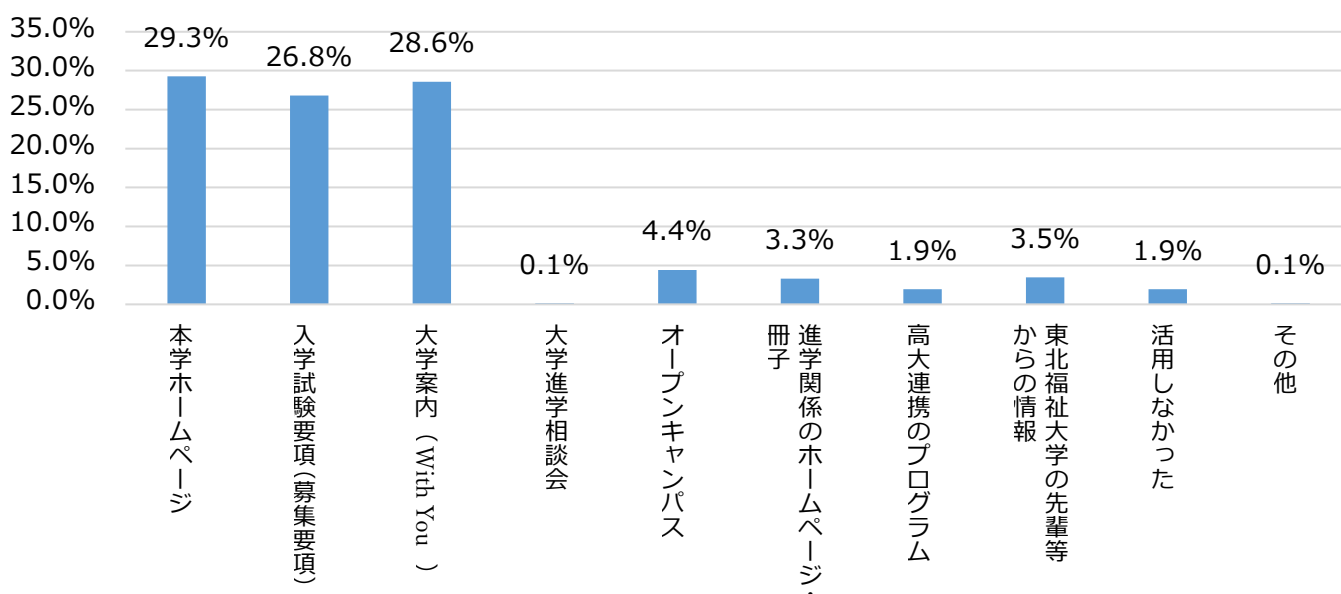


図6 進路選択に役立った情報取得ツール (1択)

図5は進路選択のための情報収集に利用したツールについて、利用したものを3つまで選択した結果を集計した結果である。なお、複数回答のため、割合は選択した者の数を総回答数(724)で割って算出している。結果は「大学ホームページ」(86.9%)、「入学試験要項(募集要項)」(70.2%)、「大学案内 (With You)」(58.3%)の順となっている。

また、図6は図5と同様の質問を最も参考としたもの1つに絞って回答した結果である。図5と同様に「大学ホームページ」(29.3%)、「入学試験要項(募集要項)」(26.8%)、「大学案内 (With You)」(28.6%)への回答率が高い。

その一方で、図 5 と比較すると、図 6 における上位 3 ツールへの回答率の差は小さくなり、ほぼ同率となる。この結果は多くの高校生が大学ホームページを大学選びの入り口として参考に行っている一方で、最も参考にする情報としては、入試要項や大学案内も同等となることを示唆している。

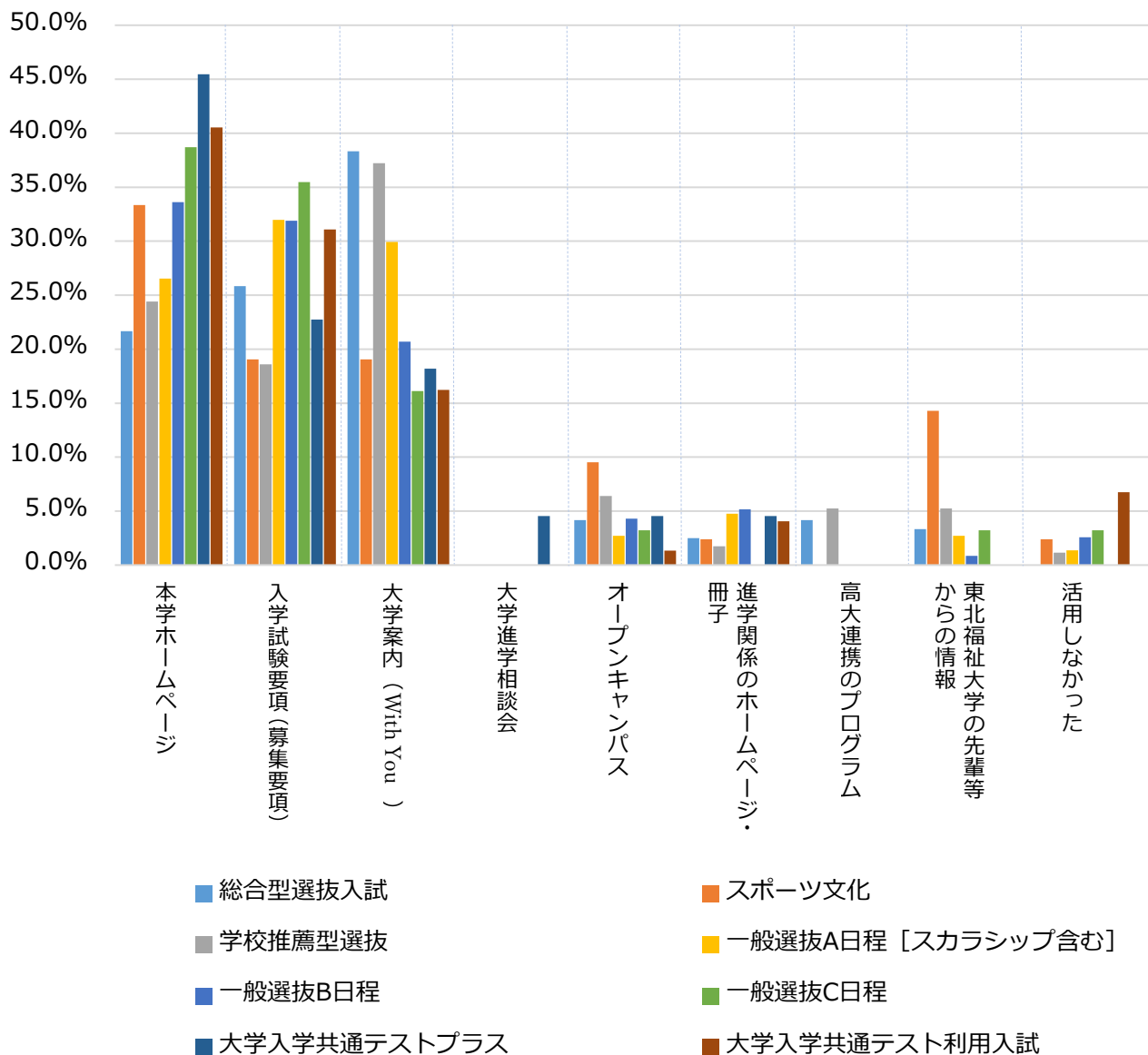


図 7 進路選択に役立った情報取得ツールの入試形態別活用傾向

また、図 7 は図 6 について入試形態毎にクロス集計した結果である。図 6 と同様に図 7 においても、「本学ホームページ」「入学試験要項 (募集要項)」「大学案内 (With You)」の 3 つが回答されている比率が高い。しかし、その高い中でも、『総合型選抜入試』、『学校型推薦』においては「大学案内 (With You)」と回答した割合が高いのに対して、『一般選抜 A』、『一般選抜 B』、『一般選抜 C』においては「入学試験要項」と回答した割合が高いという特徴を見出すことができる。また、『スポーツ文化』においては「東北福祉大学の先輩等からの情報」を参考としている点も全体の傾向とは異なっている。

これらの結果と選抜時期、選抜方法をあわせて考えると、特に、早期に推薦入試を検討する者は「大学案内」の情報を参考としていることが示唆される。

5) 高大連携事業の認知度とその利用

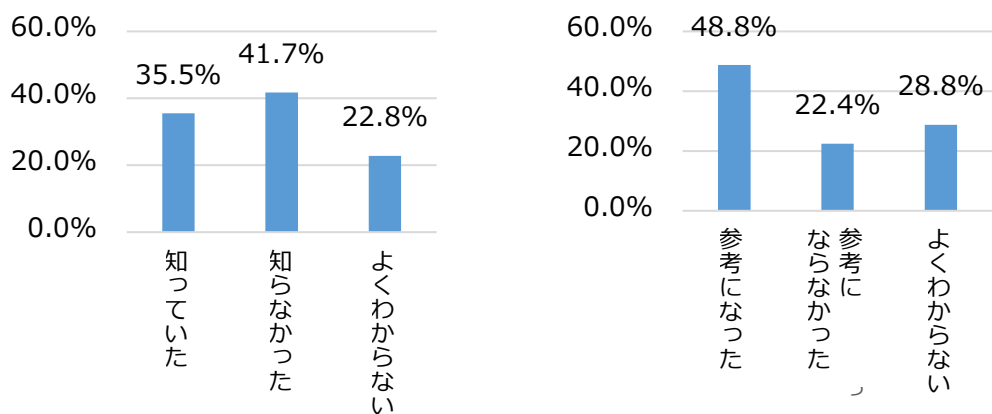


図8 認知度（左）と認知者における進路決定への寄与（右）

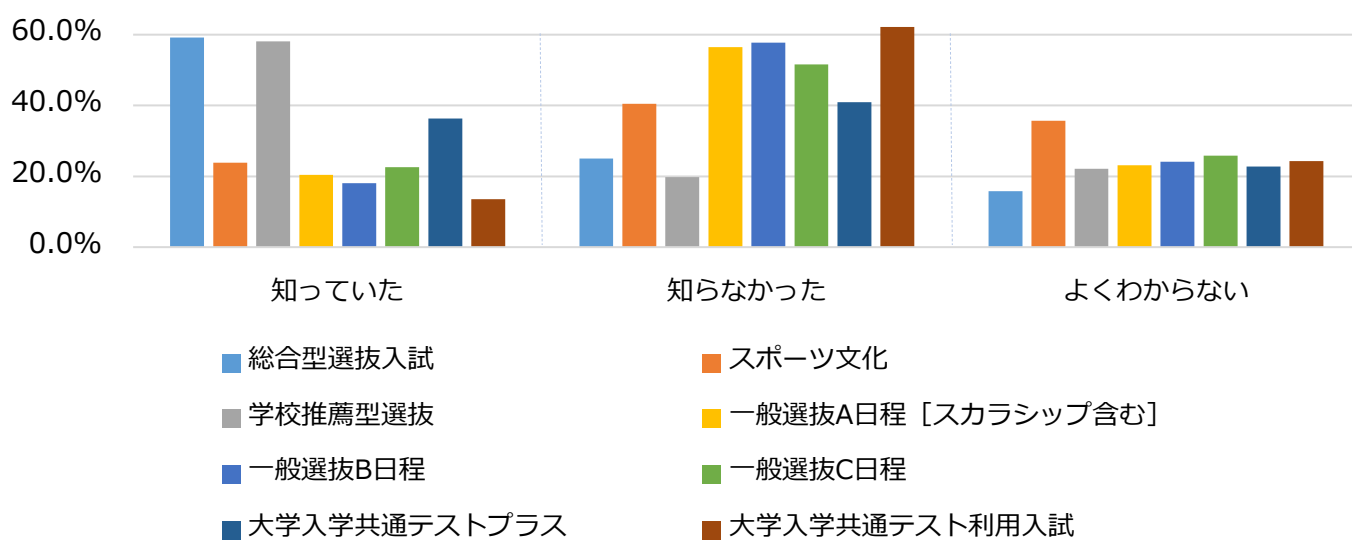


図9 認知度（入試形態別傾向）

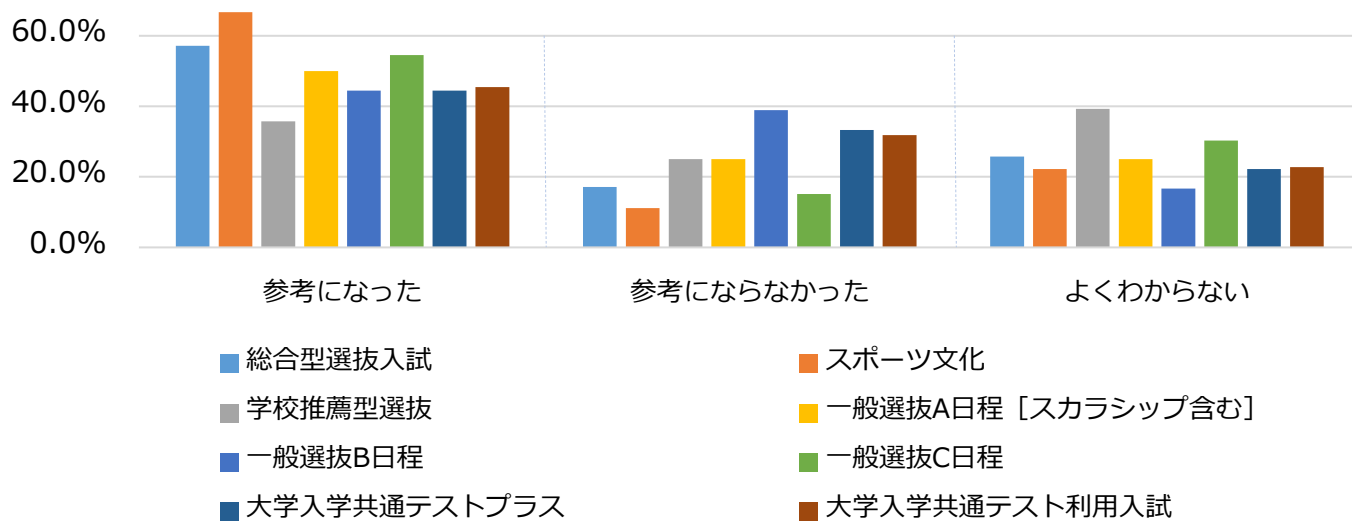


図10 認知者における進路決定への寄与（入試形態別傾向）

図8の左右は、それぞれ、高大連携事業の認知度と高大連携事業を知っていた者がそれを進路決定の参考にしたかを集計した結果である。なお、高大連携事業を知っていた者は全体の35.5%（257名）で回答者の3分の1であった。また、認知している者の中で高大連携事業を進路決定の参考にした者は認知者のほぼ50%である。したがって、高大連携事業を認知している入学者の半数がそれを進路決定の参考にしていることになる。

図8（左）を入試形態別に集計した結果が図9である。全体における高大連携事業の認知度は35%程度であったのに対して、『総合型選抜入試』および『学校推薦型選抜』においては約60%にまで増加する。それに対して、『大学共通テストプラス』を除いた他の入試形態においては、逆に、認知度は15～20%程度に低下する。この結果は高大連携事業の開催時期（夏ごろ）と関係していると推察され、『総合型選抜入試』および『学校推薦型選抜』など早い時期の選抜試験の受験を検討している者にとって、高大連携事業は興味を惹く事業となっていることが示唆される。

さらに、図8（右）を入試形態別に集計した結果が図10である。全体において、高大連携事業を認知して進路決定の参考にした者が約50%であったのに対して、『学校推薦型入試』において35.7%とやや低い値になっている他は40%を超える水準となっており、『スポーツ文化』においては66.7%と3分の2の高校生が高大連携事業を進路決定の参考にしていることがわかった。

これらのことから、高大連携事業は推薦選抜を検討している高校生の進路決定の参考情報として大きな重みを有していることを示唆しており、それらの生徒に対して、各学科の特色や魅力を伝える情報源となる可能性を示している。

6) 入学前教育

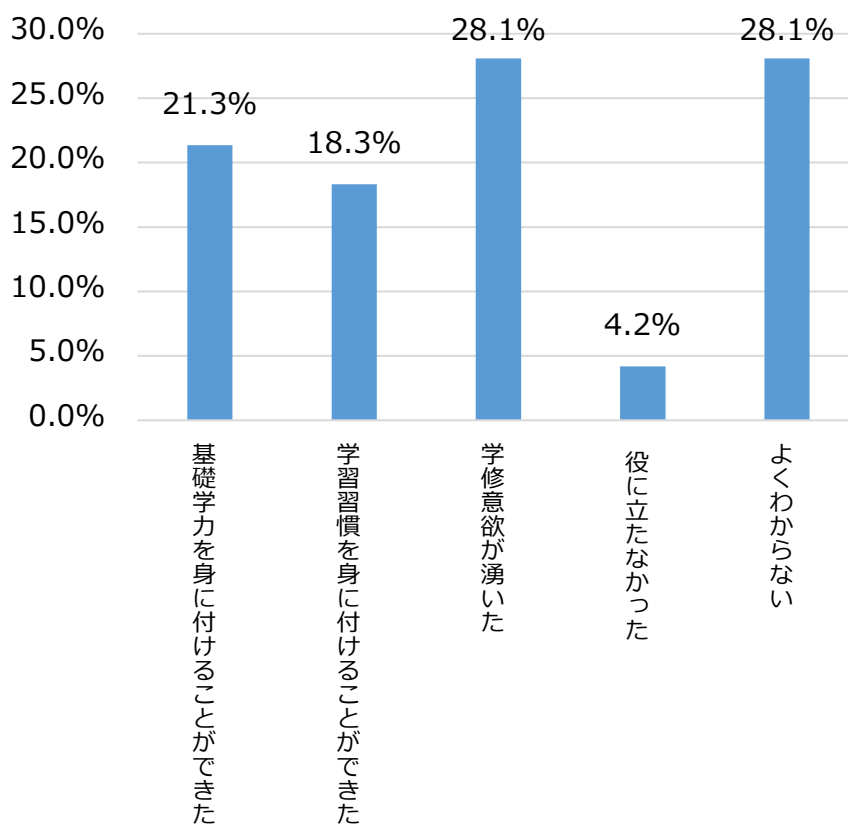


図11 入学後の学修への効果

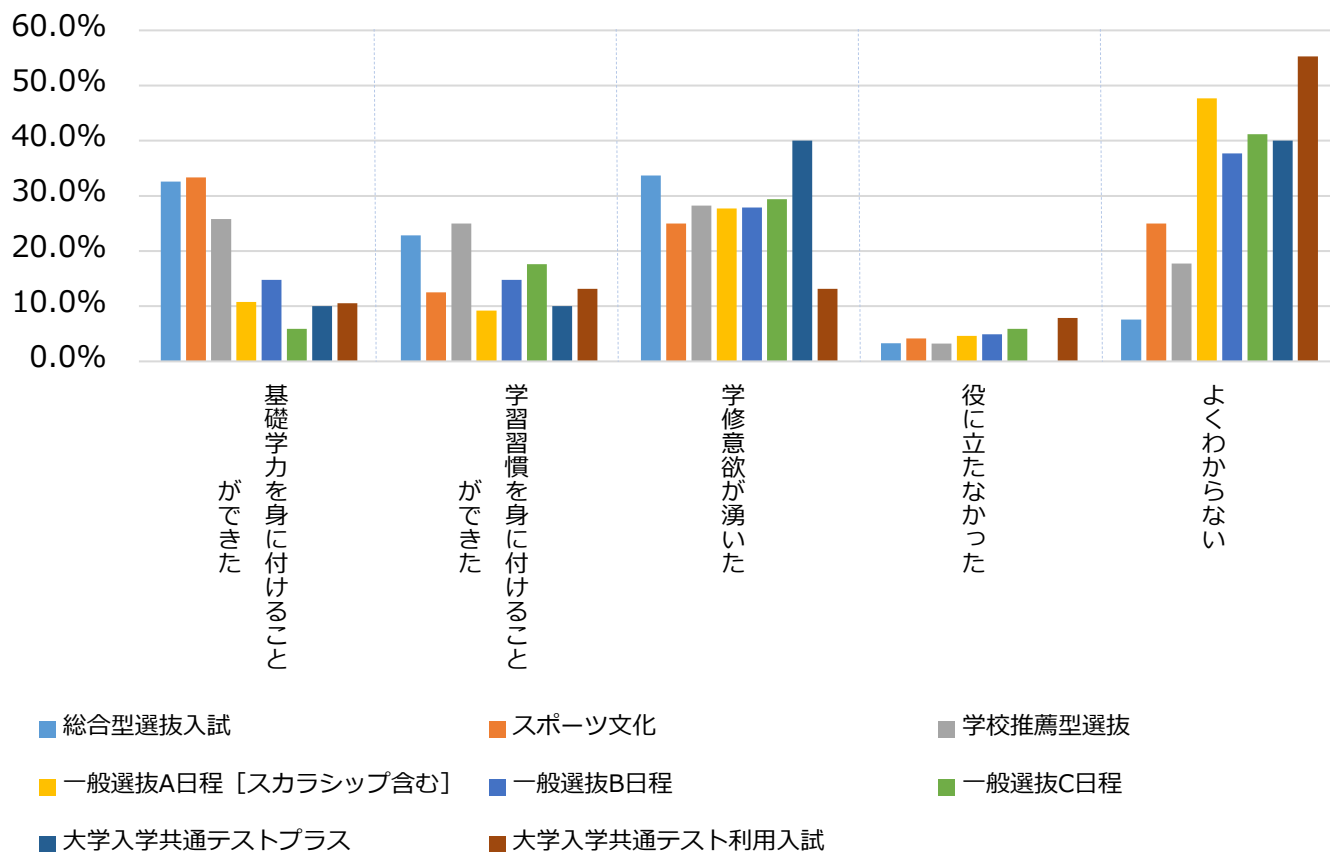


図 12 各効果の入試形態別傾向

図 11 は入学前教育が入学後の学修のどこに役に立っているかを一つだけ選択した結果を集計したものである。選択肢は図 11 に示した通りである。集計結果においては「基礎学力を身に付けることができた」、「学修意欲が湧いた」、「よくわからない」の 2 項目が 20%を超えて、高い値となっている。

図 12 は図 11 を入試形態別にクロス集計した結果である。図 11 と図 12 を項目ごとに比較すると、

・基礎学力を身に付けることができた

全体が 21%であるのに対して『総合選抜入試』『スポーツ文化』では 30%を超える。その一方で、『一般選抜 A～C』、『大学入学共通テストプラス』『大学入学共通テスト利用入試』では 15%を下回っている。

・学習習慣を身に付けることができた

全体が 18%であるのに対して『総合選抜入試』『学校推薦型選抜』で 20%を超える。その一方で、『一般選抜 A 日程』『大学入学共通テストプラス』において 10%を下回っている。

・学修意欲が湧いた

全体が 28%であるのに対して、『大学入学共通テストプラス』が 40%とやや高いのに対して、その他も 25～35%程度の大きな違いは見出だせない。

・役に立たなかった

全体が 4.2%であるのに対して、どの入試形態においても同程度で大きな違いは見出だせない。

・よくわからない

全体が 28%であるのに対して『総合選抜入試』が 7.3%、『学校推薦型選抜』が 17.7%と低い値となっている。その一方で、『一般選抜 A～C』、『大学入学共通テストプラス』『大学入学共通テスト利用入試』においては 40%程度と高い値となっている。

これらをあわせて考えると、推薦選抜によって早期に進路が決定し、入学前教育を受ける機会が多い『総合型選抜入試』『スポーツ文化』『学校推薦型選抜』において、入学後の学修に役に立っている印象を持っている者が多いのに対して、それ以外については役に立たなかったとは思っていないものの、その効果が実感できていない者が多いことが見て取れる。

7) 大学生生活の充実感

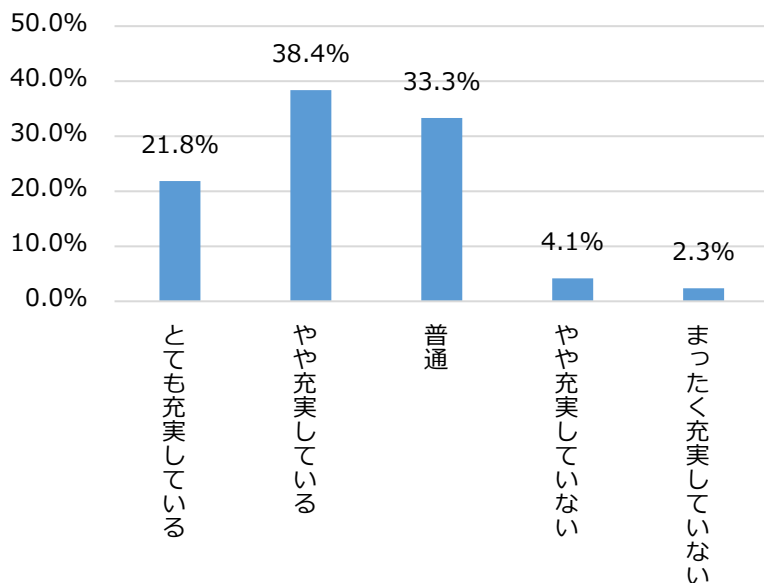


図 13 充実感（全体割合）

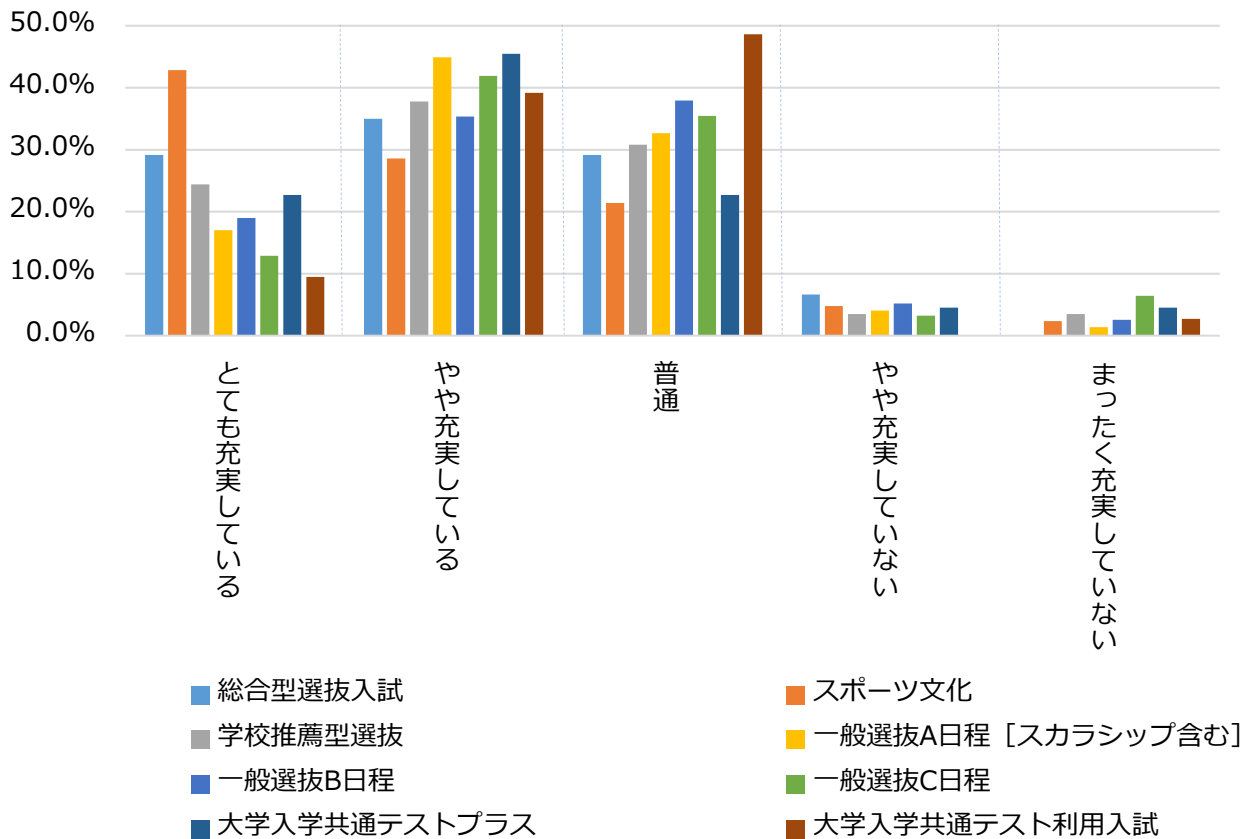


図 14 充実感（入試形態別傾向）

図 13 は大学生生活の充実度を「とても充実している」「やや充実している」「普通」「やや充実していない」「まったく充実していない」の 5 つの選択肢から回答された結果を示したものである。また、図 14 は図 13 を入試形態毎にクロス集計した結果である。

図 13 から「やや充実していない」「まったく充実していない」の合計値が 6.4%であり、入学生の 90%以上が大学生生活に対して普通以上の充実度を感じていることがわかる。今回の調査はコロナウイルス禍中に実施されたものであり、様々な制限を受けた大学生活の中で実施されたものである。そのため、例年の傾向とは異なる可能性が高く、継続的な調査が必要であると考え。

図 13 をクロス集計した図 14 においても、図 13 と同様の傾向があり、全ての入試形態において「やや充実していない」「まったく充実していない」の合計は 10%を下回っており、全体集計の結果とクロス集計の結果の間で大きな違いは見出せない。

8) 休学および退学の検討

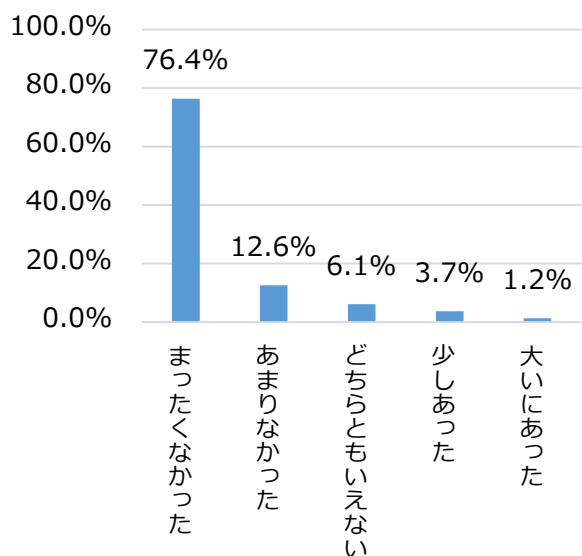


図 15 休学検討の有無

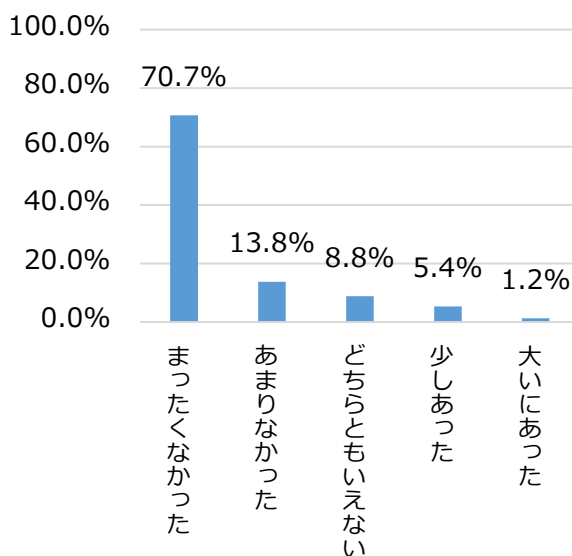


図 16 退学検討の有無

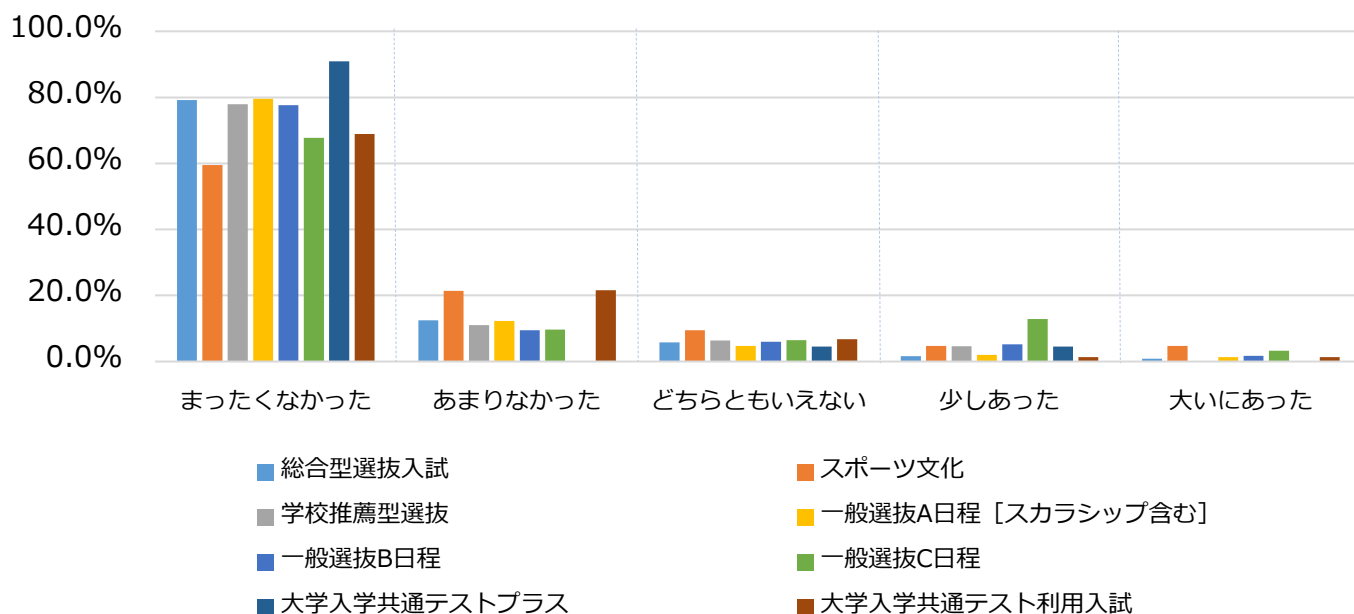


図 17 休学検討の有無に関する入試形態別傾向

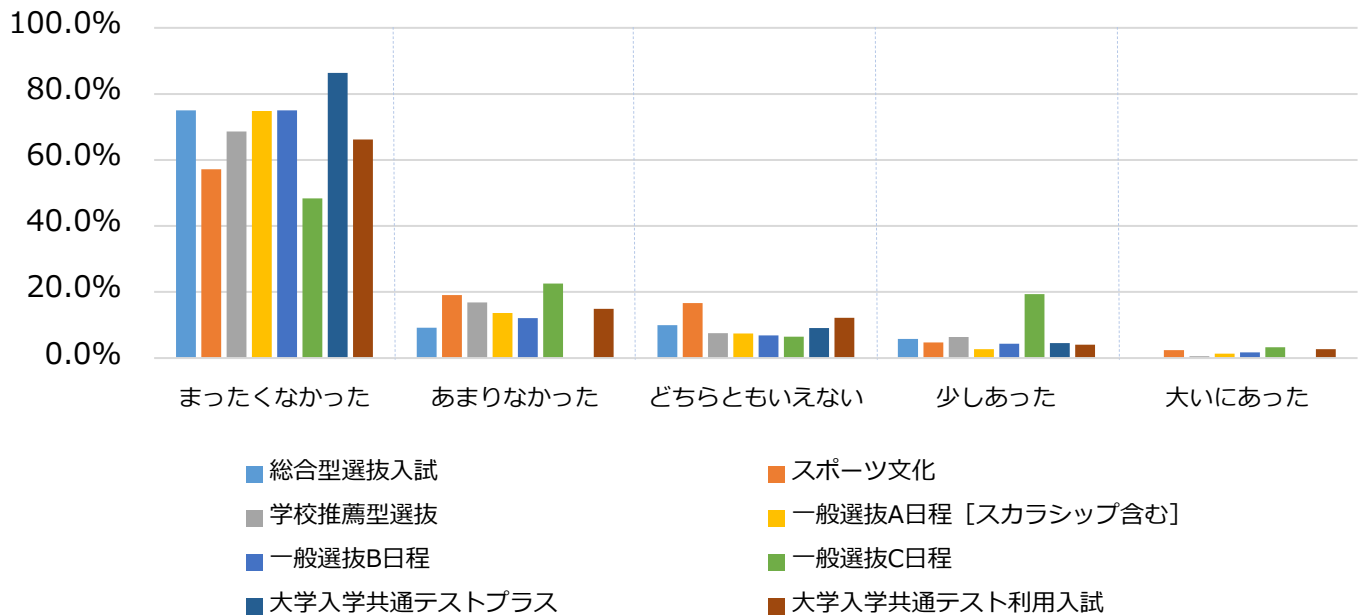


図 18 退学検討の有無に関する入試形態別傾向

図 15 と図 16 は、それぞれ、休学と退学の検討を「まったくなかった」「あまりなかった」「どちらともいえない」「少しあった」「大いにあった」の 5 つの選択肢で調査した結果である。また、図 17 と図 18 は、それぞれ、図 15 と図 16 を入試形態でクロス集計した結果である。

図 15 から休学を考えたことが「少しあった」「大いにあった」の合計は 4.9%であり、図 16 から退学を「少しあった」「大いにあった」の合計は 6.6%である。これらの値は 10%を大きく下回っており、これらの検討をしている新入生は 10 人に 1 人に満たないことを示している。

一方、クロス集計をした結果からは『一般選抜 C 日程』において全体の結果よりもやや高く、休学を考えたことが「少しあった」「大いにあった」と回答した者の合計が 16.1%であり、退学を考えたことが「少しあった」「大いにあった」と回答した者の合計が 22.6%である。ただし、今回の調査はコロナウイルス禍中に実施されたものであり、様々な制限を受けた大学生活の中で実施されたものである。そのため、例年の傾向とは異なる可能性は高い。したがって、この傾向が一過性である可能性があり、継続的な調査が必要であると考えられる。

<2021 年度 設問一覧>

設問 1. 本学への入学が決まった入試形式について教えてください。

(選択肢)

総合型選抜入試
スポーツ文化
学校推薦型選抜
一般選抜 A 日程 [スカラシップ含む]
一般選抜 B 日程
一般選抜 C 日程
大学入学共通テストプラス
大学入学共通テスト利用入試

設問 2. 入学の目的についてお聴きします。あなたはどのようなことを本学入学の目標としていましたか。あてはまるものにチェックを入れてください(1つ以上 3 つまで)。選択肢以外にある方は、「その他」にチェックを入れ、下の自由記載欄にその内容をお書きください(全角 200 文字以内)。

(選択肢)

興味・関心のあることを学ぶ
在学中の経験を通じて自分を成長させる
将来やりたい仕事ややりたい職業に就く
資格の取得
大学卒業というステータスを得る
文化やスポーツ、ボランティア活動に打ち込む
よくわからない、なんとなく
その他

設問 3. 入学に至るまでの大学の取組(大学案内・オープンキャンパス・各種相談会・入試制度・入学前教育など)について、よかったこと、改善してほしいことや要望について、ご意見をお聞かせください。

(1) 良かったこと(全角 200 文字以内)

(2) 改善してほしいことや要望(全角 200 文字以内)

設問 4. 本学のアドミッション・ポリシー:入学者受入れの方針(以下:APP)についてお聞きます。APP の内容は十分に理解でき、進路選択の参考になりましたか? あてはまるものにひとつチェックを入れてください。

(選択肢)

理解できて参考にした
理解できたが参考にしなかった
理解できなかったが参考にはした
理解できず参考にもしなかった

設問 5. 進路選択のため入試情報等をどの情報ツールで収集したかお聞きます。あてはまるものすべてにチェックを入れてください（1つ以上。複数回答可）。選択肢以外にある方は、「その他」にチェックを入れ、下の自由記載欄にその内容をお書きください（全角 200 文字以内）

（選択肢）

本学ホームページ
入学試験要項（募集要項）
大学案内（With You）
オープンキャンパス
進学関係のホームページ・冊子
高大連携プログラム
本学に在籍する（在籍した）先輩等からの情報
大学進学相談会
活用しなかった
その他

設問 6. 活用した情報ツールの中で、一番参考となったものにチェックを入れてください。選択肢以外にある方は、「その他」にチェックを入れ、下の自由記載欄にその内容をお書きください（全角 200 文字以内）。

（選択肢）

同上

設問 7. 本学ホームページ「入試情報」の内容で、参考になった記述・コンテンツについて、あてはまるものすべてにチェックを入れてください（1つ以上。複数回答可）。選択肢以外にある方は、「その他」にチェックを入れ、下の自由記載欄にその内容をお書きください（全角 200 文字以内）。

（選択肢）

学科・入試概要に関する説明動画
入試制度
イベント・説明会（進学相談会 オープンキャンパス）
学費・手続きおよび経済支援等に関する説明動画
入学前教育
高大連携プログラム
その他

設問 8. 本学ホームページ「入試情報」の内容で、改善してほしいことや要望についてご意見をお聞かせください（全角 200 文字以内）。

設問9. 高大連携についてお聴きします。

(1) 大学と高校の取組(高大連携事業)を知っていましたか。あてはまるものひとつにチェックを入れてください。

(選択肢)

知っていた
知らなかった
よくわからない

(2) (1)の設問で、高大連携事業を「知っていた」にチェックした方にお聴きします。高大連携事業は、進路決定の志望順位の参考になりましたか。あてはまるものひとつにチェックを入れてください。

(選択肢)

参考になった
参考にならなかった
よくわからない

(3) 本学では、大学と高等学校の指導の下で入学前教育を実施しています。入学前教育は入学後の学修に役に立っていますか。あてはまるものすべてにチェックを入れてください(1つ以上。複数回答可)。

(選択肢)

基礎学力を身に付けることができた
学習習慣を身に付けることができた
役に立たなかった
学修意欲が湧いた
よくわからない